

避難訓練の意識変容：形式的な「行事」から「命を守る準備」へ

形式的な行事



避難訓練を単なる学校行事ではなく「命を守るための切実な準備」と捉え直す大きな意識変容が見られました。過去の不真面目な姿勢を省み、具体的行動や責任感、心理的備えを習得した過程をまとめます。

命を守る準備



実践的なスキルと「自分事化」への変容



訓練を「本番」のシチュエーションへ「訓練だから」という甘えを捨て、実際の災害をリアルに想像できるようになった。



行動規範「おかしもち」の徹底
知識としてのルールを、静かに聞く・口を隠すといった生存率を高める技術へ昇華。



日常に潜むリスクの理解
学校だけでなく「家で起きたら」という家庭での状況にまで思考を広げた。

リーダーシップと心理的な備え



高学年としての自覚と共助の精神
下級生の手本となる「ロールモデル意識」と、他者を助けたい意欲が芽生えた。



パニックを防ぐ「レジリエンス」
冷静に行動することの重要性を学び、事前の準備が逃げ遅れを防ぐ鍵だと認識。



生き残るためのスキル習得の場
形式的な参加から脱却し、訓練を「生き残るための場」として再定義した。